

2008年4月18日

各位

熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号
株式会社トランスジェニック
代表取締役社長 是石 匡宏
(コード番号 2342 東証マザーズ)
(連絡先) IR・広報担当 森田 貴子
電話番号 078-306-0590

公的データベースへのTG Resource Bank®の公開について

当社のTG Resource Bank®に収録している生命資源情報が、マウス・ラット系統に関する公的データベース「Japan Mouse/Rat Strain Resources Database (以下、JMSRとする)」に公開されましたことをお知らせいたします。

JMSRは、国立遺伝学研究所 生物遺伝資源情報センターが管理、運営する公的なデータベースであり、研究機関や民間企業が保有するマウス・ラットの系統情報が収録されています。

当社は、「可変型遺伝子トラップ法」を用いて、大規模・網羅的に遺伝子破壊マウス・ES細胞を製作し、これらに関する情報を、TG Resource Bank®として当社ウェブサイト上に公開し、国内外の製薬企業・研究機関などに対して系統毎の使用権を許諾しています。

このたびのような公的データベースへの公開により、TG Resource Bank®へのアクセスは飛躍的に増加し、その認知度が高まることが期待されます。今後もより多くの研究者にTG Resource Bank®を活用していただけるよう引き続き取り組んでまいります。

なお、現時点においては、本件が当社の業績に及ぼす影響は未定であります。今後、重大な影響を与えることが判明した場合には速やかにお知らせいたします。

ご参考：Japan Mouse/Rat Strain Resources Database

<http://shigen.lab.nig.ac.jp/mouse/jmsr/top.jsp>

機関・企業名	収録系統数
株式会社トランスジェニック	2708
国立遺伝学研究所	149
熊本大学	894
京都大学	384
理化学研究所 バイオリソースセンター	1655
日本チャールス・リバー株式会社	32
医薬基盤研究所	22
日本クレア株式会社	35

出所：JMSRホームページ 本日現在

以上

参考資料として、主な用語説明を添付しております。

<参考資料>

用語説明：

*可変型遺伝子トラップ法

熊本大学 発生医学研究センター教授 山村研一（当社取締役）らにより発明された遺伝子改変マウスの効率的な作製方法であり、マウスES細胞に発現する遺伝子をランダムに完全破壊する方法です。従来のトラップ法に比べて、遺伝子の完全破壊が行えること、破壊した遺伝子の位置にヒト遺伝子や点突然変異などを挿入することができることが特徴であり、ヒト疾患モデル動物の開発や詳細な遺伝子機能解析に有用な手法です。

*TG Resource Bank[®]

当社が保有する生命資源ライブラリーの呼称。

可変型遺伝子トラップ法を用いて作製した遺伝子破壊マウス約 700 系統・遺伝子破壊ES細胞約 2000 クローンの情報を、2006年9月より当社ウェブサイト上に公開しています。

以上